

平成25年度
宇都宮短期大学附属高等学校入学試験問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は、板書されている時間割のと通りの50分間です。
- 3 問題数は大きな問題が5問で、表紙を除いて10ページです。
- 4 解答用紙は1枚で、答え方はマークシート方式です。
- 5 監督者の指示にしたがって、試験開始前に受験番号と氏名を解答用紙のきめられた欄に書き、さらに受験番号をマーク欄にマークしなさい。
- 6 答えは、解答用紙に記載されている〔解答マーク記入上の注意〕、および試験開始前に行われたマークシート練習プリントにしたがって、ていねいにマークしなさい。
- 7 試験中に質問があれば、手をあげて監督者に聞きなさい。
- 8 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおきなさい。

一

次のそれぞれの問いに答えよ。

問一

次の――線のカタカナにあてはまる漢字を、それぞれ「」の中から選べ。

(1) 悪党にチヨウウ罰を加える。

〔ア 頂 イ 徴 ウ 重 エ 懲〕

(2) 巻末のサク引で調べてみよう。

〔ア 索 イ 策 ウ 錯 エ 作〕

(3) 強ゴウ校を相手に勝利した。

〔ア 硬 イ 荒 ウ 号 エ 豪〕

(4) 祖父から感ガイ深い話を聞く。

〔ア 概 イ 慨 ウ 涯 エ 該〕

問二

「窓」の部首はどれか。

ア 宀 イ 艹 ウ ム エ 心

問三

〔A〕〔B〕に同じ漢字が入る熟語はどれか。

ア 〔A〕進 〔B〕歩
ウ 〔A〕頭 〔B〕尾
エ 〔A〕機 〔B〕髪
イ 〔A〕我 〔B〕中

二

次のそれぞれの問いに答えよ。

問一

次の例文のだと意味・用法が同じものはどれか。
ピッチャーに選ばれるのはきつと君だ。

ア 猛暑が続いているが子供たちはとても元気だ。

イ 明日は待ちに待った運動会が開催される日だ。

ウ 参考書を読んだが、解き方はわからなかった。

エ 祖母はその服をととても気に入っていたようだ。

問二

同じ語に対する尊敬語と謙譲語の組み合わせとして、適当でないものはどれか。

ア 恵む 差しあげる

イ お出かけになる 参る

ウ 召しあがる いただく

エ いらっしゃる おる

問三

次の例文の――線の動詞の活用形はどれか。

あの犬は、呼んでも来ない。

ア 未然形 イ 連用形

ウ 連体形 エ 仮定形

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

東の京に住む長敏(ながとし)といふ者、津(つ)の国鷺林寺(じゅりんじ)といふ山里に分け入ることのありしに、折しも夏のはじめにて、山路の木々の緑なる中より、時鳥(ときどり)おとづれば、あたりの家の内に女の声して「主よ、時鳥や聞きたまひし。」といふ。

長敏聞きて、かかる所に住む者のをかしくもめでつることと思ひて、とかくするうちに、丈高く恐ろしげなる男の、家の内より銃を持ちて出でにけるに、「こはいかにするぞ。」と問ひければ、「この鳥は疱瘡(ぼくさ)の薬なるゆゑに、取りて得させよといふ人はべれば、このころより幾日か待ちつけはべるなり。」と申すに、興ざめて帰りき。
(「落栗物語」から)

(注1) 津の国 || 現在の大阪府北部と兵庫県東部にわたる地域
(注2) 時鳥 || 夏の到来を告げるとされている鳥

(注3) 疱瘡 || 天然痘という病気

問一

(1) (a) 折しも、おとづればの本文中での意味はそれぞれどなか。
(b) 折しも

- ア あいにく当時は
イ そもそも時期は
ウ 偶然にも季節は
エ ちょうどその時は
- ア 羽音をたてるので
イ さえずったところ
ウ こちらにやってくる
エ 飛び立ったので

問二

① 時鳥や聞きたまひし。の意味として適当なものはどれか。
ア 時鳥が鳴くのを聞いてはいけません。
イ 時鳥の飛び立つ音を聞いてみませんか。
ウ 時鳥の鳴く音をお聞きになりましたか。
エ 時鳥が逃げたのはあなたの声を聞いたからでしょう。

問三

② かかる所が指している場所として最も適当なものはどれか。
ア 家の内
イ 東の京
ウ 山路
エ 山里

問四

③ 「こはいかにするぞ。」とあるが、この時の「長敏」の気持ちとして適当なものはどれか。
ア 恐ろしそうな容貌の「男」に対する恐怖
イ 「女」と「男」のやりとりに対する好奇心
ウ 銃を持ち出した「男」の行動に対する驚き
エ 今まさに殺されようとする「時鳥」に対する同情

問五

④ 帰りき。とあるが、その理由として最も適当なものはどれか。
ア 「時鳥」が価値のない鳥であると知って拍子抜けしたから
イ 「時鳥」を食べるような粗野な行いが腹立たしかったから
ウ 「時鳥」に薬効があることを自国の人に伝えたかったから
エ 「時鳥」に何の風流心も持たない田舎の人にあきれたから

四

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

地球という限られた空間に生きる人類は、今大きな難問に遭遇している。地球環境がどんどん劣化しているにもかかわらず、何事もなすことなく、漫然となすがままに放置している状態にあるからだ。このままでは人類の未来は暗いと知りつつ、日常の些事（注1）に紛れ、目の前の利益に目が眩（注2）んで、ひたすら同じ道を歩もうとしているのである。そのことを暗示的に表現しているエピソードが思い出される。一九六八年にイギリスのガレット・ハーディング（注2）が提唱した「共有地の悲劇」である。

ここに誰（注1）でもが使える共有地がある。「Ⅰ」羊飼いは、共有地になるべく多くの羊を飼おうとする。羊を飼うことは自らの利益になり、それも多く飼えば多いほど利益が上がる。それは、羊飼いとしては当然の行為であり、合理的な選択である。そして、他の羊飼いやも同様に考えて羊を多く飼おうとする。しかし、羊が増えれば共有地は当然荒れることになる。多くの羊が限られた面積の草を食み、歩き回ることによって土が硬くなるからだ。そのため損失も増えてくる。

「Ⅱ」ここで羊飼いは考える。さらに多くの羊を飼うべきか、それとも羊を飼うのを控えて共有地が荒れるのを防ぐべきか、と。羊を多く飼えば自分は儲けることはできる。他方、共有地が荒れてもみんなの損でしかない。儲けは

A

だけれど、損失は

B

なのだ。あるいは、儲けは今すぐの問題だが、損失は今後のお話である。ならば、羊飼いはどう判断するだろうか。いっそう多くの羊を飼って今の儲けを大きくする方が合理的と考えるだろう。そうすれば、少なくとも当面はうまくいくからだ。しかし、そうなれば共有地は完全に荒れ、使い物でなくなってしまうことになる。共有地に悲劇が訪れるしかないのだ。

「Ⅲ」例えば海洋資源がある。現在、占有海域である沿岸二〇〇カイリ以遠の海洋は、（ a ）地球上の誰にでも開かれている共有地である。そこでは、（クジラ以外）どのような魚種を獲っても構わない。（ b ）漁業を営む者は誰でも多くの魚を獲りたいと思う。多く獲れば獲るほど儲けになるからだ。そのため漁業資源が減っても個人の損失ではなく、みんなが損を被るだけである。損失は薄められるのだ。（ c ）より多く船を出してより多く漁をする方が得策である。（ d ）海は荒れ、漁業資源はほとんど枯渇してゆくことになる。現実には、世界の漁業資源は枯渇に向かっていることが報告されている。一〇〇年もつかどうか心もとない状況に追い込まれつつあるのだ。漁業における共有地の悲劇が近々にやってくることは確実である。

漁業資源の問題だけではない。「Ⅳ」クルマによる大気汚染も、フロンによるオゾン層の破壊も、タバコのポイ捨ても同じであ

る。クルマに乗ることは個人の得だが、大気という共有地の汚染はみんなの損。フロンの使用によって冷蔵庫やクーラーを便利に使えるのは個人の利得で、オゾン層という共有地の破壊はみんなの損失。タバコのポイ捨てによって自分の利益になるが、それで共有の都市を汚してもみんなが迷惑するだけ。いづれも問題^③は共通している。

近場における個人の利益と地球大に薄められたみんなの損失なのだ。その場合の人々の選択も共通している。個人の利益を優先して、みんなの損失には **C** ことである。こうして、地球という共有地は荒れる一方なのだ。

この状況は、私たちの近代の価値に関する思考とも深くからんでいる。近代民主主義は、「今」という時点での「個人」の価値を最優先させた。過去の家柄や血統に関係なく、目の前にある「今」の平等性を重視して「個人」は対等であると宣言した。そして、人間の過去の履歴にはかかわらず、誰にも「今」の自由があることをも宣言した。「今」の時点の「個人」こそが至高なのである。いわゆる「共時的価値」であって、これはこれで正しい思考であった。「共時的価値」は、封建時代に評価された家という過去の価値を否定し、「今」の「個人」を大事にする思想であったからだ。それが近代に獲得した私たちの財産なのである。

しかし、環境問題を考える上では、共時的価値のみでは限界がある。未来について何らの責任を負わないからだ。どのような環境を子孫に残すか、貴重な資源を使い潰さずいかに子孫に手渡すか、環境問題においては、このような時間を超えた「通時的価値」^④が重要

になってくる。未来への責任である。共有地の悲劇を避けるためには、「今」の利益のみではなく「未来」の利益を考え、「個人」の利得だけでなく「みんな」の損失を共有する思想を獲得しなければならぬ。未来に対する通時的な思考を取り戻さねばならないのだ。

(池内了「ソフトランディングの科学」から)

(注1) 些事^{さじ}とするにたらない事柄

(注2) ガレット・ハーディング^{II}アメリカ出身の生物学者

問一 ① ひたすら同じ道を歩もうとしているとあるが、その説明として最も適当なものはどれか。

ア 人類が、環境問題に対し何の対策も取ろうとせずに地球環境を劣化させていること。

イ 人類が、地球という限られた空間に生きる上で常に大きな難問に遭遇し続けていること

ウ 人類が、未来の利益より現在の利益を優先して現状を維持し続けていること

エ 人類が、地球の問題解決の糸口を日常のとりとめもない事の中から見つけられずにいること

問二 次の一文が入るところは、本文中の「Ⅰ」から「Ⅳ」のどこか。適当なものを後から選べ。

この話は、共有地を「地球」に置き換えれば、多くの事柄に適用できる。

ア 「Ⅰ」 イ 「Ⅱ」 ウ 「Ⅲ」 エ 「Ⅳ」

問三 空欄

A

・

B

 に入る語句の組み合わせとして

適当なものはどれか。

ア [A] 具体的 B 抽象的

イ [A] 抽象的 B 具体的

ウ [A] 間接的 B 直接的

エ [A] 直接的 B 間接的

問四 (a) から (d) に入る語の組み合わせとして適当なものはどれか。

ア [a] ならば b こうして c すると d いわば

イ [a] いわば b すると c ならば d こうして

ウ [a] こうして b ならば c いわば d すると

エ [a] すると b いわば c こうして d ならば

問五 ② 漁業における共有地の悲劇とあるが、その説明として適当なものどれか。

ア 魚を出来るだけ多く獲りたいという自己中心的な気持ちは共有地での漁業資源の荒廃につながり、漁場としての機能が全くなくなってしまうこと

イ 沿岸二〇〇カイリ以遠の海洋も特定の人々の占有海域となり、地球上の誰もが自由に入入りして漁業を営むことのできる共有海域が消えてしまうこと

ウ 共有地では漁獲する魚に制限がないため漁業を営む者が際限なく増えていくと同時に、彼らが個人の儲けのためにより多くの魚を獲ろうとすること

エ 今は魚を多く獲れば獲るほど個人の儲けが増えるが、将来的にはいくら魚を多く獲っても全体の儲けにしかつながらないようになること

問六^③ 問題とあるが、その説明として最も適当なものはどれか。

- ア 限りある資源を無駄に使って生活をしていること
- イ 「今」の自分の利益を最優先して考えていること
- ウ 「未来」の責任を取りきれているとは言えないこと
- エ 将来のみんなの損失を平等に分配するのが難しいこと

問七 空欄 **C** に入る慣用句として適当なものはどれか。

- ア 目をつむる
- イ 目を光らす
- ウ 目をうたがう
- エ 目をかける

問八^④ 通時的の説明として適当なものはどれか。

ア 同時代の人々だけが共有している感覚をもとに物事を考察することであり、「共時的」とは対になる概念である。

イ 過去と現在の物事の共通性に注目することであり、「共時的」とほぼ同じ概念である。

ウ 物事を時間の流れの中でその変化も含めてとらえることであり、「共時的」とは対になる概念である。

エ 連続した時間の中で物事の体系や構造を理解することであり、「共時的」とほぼ同じ概念である。

問九 本文中で述べられている内容として適当なものはどれか。

ア 地球資源の枯渇を食い止めるためには、「今」の「個人」を重要視する近代の思想を再び手に入れることが求められる。

イ 大切な地球資源を「未来」の子孫に残すために、個人優先の考え方をやめて全体の損失を共有する思想を持つべきだ。

ウ 「今」の損失を共有する思想を持つことによるのみ環境問題は解決でき、「今」と「未来」の利益も保障される。

エ 自分の利得を重視し他人の損失を考慮しない封建的な考え方は、「未来」を重視する考え方に変えなければならない。

五

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「おかしなもんだな」卒業証書と調理師免許を重ねて手渡すと、病床の父は静かに微笑んだ。「父親はまるで料理ができんのに、息子は立派なプロの調理師だ」① 痩せて尖った顎が満足げに頷いている。なんだかこつちの方が照れくさくなるような反応だった。

(a) 専門学校を卒業しただけのことなのである。いちおう調理師資格はとったものの、まだプロでもなければ立派でもない。調理師と名乗ること自体、自分でも気後れしてしまうほどなのだ。

しかし父としては、僕が調理師学校を卒業したというだけで嬉しいらしい。卒業のご褒美だともいうように、枕元から一通の封筒を取り出してくれた。「お前に残してやれるのはこれだけだ」あらかじめそのつもりで用意していたのだろう。(b) 大きな封筒だった。雑誌でも入っているのかと思ったが、出てきたのはいかめしい書類の束である。難しそうな漢字がずらりと並んでいて、僕はそれだけで見るのが面倒になった。

息子のそんな反応は予期していたのか、父はぼつりと付け加えた。

「じいさんの店があった土地の、権利書だ」「えっ?」「あの洋食屋のあった土地だ。店の建物ごと売りに出していた」祖父は生前、古い日本家屋に一人で住んでいて、通りに面した土蔵を改造して洋食屋を営んでいた。その一画は祖父の遺産を整理する時に建物ごと人手に渡ったはずだが、父はなぜかわざわざ買い戻していたのだ。「退職

金が出たからな、半分ほどつぎ込んで買い戻した。——あっちの不動産屋に手筈を整えてもらったんだが、ずいぶん高くついたよ」「……」「二十歳になったら、お前が店と土地の所有者になることになってる。だから、残りの貯金とかは全部かあさんのもんだぞ」

「どうして……?」② それしか言えなかった。どうして僕に祖父の洋食屋の土地をくれようというのか、(c) わけが分からなかったのだ。③ 僕を見つめる父の目に笑いの色が浮かんだ。口元がほころび、血の気のない顔が穏やかに微笑む。「あの晩、お前達が喋っているのを聞いたんだ」

「……あの晩?」祖父の葬儀が行われた日の夜のことだと分かるまで、少々時間がかかった。(d) 思い出せたのは、父にかつての祖父の面影がだぶつたからかもしれない。「盗み聞きするつもりじゃなかったんだが、用足しに立った時にお前達の部屋の前を通りかかってな」「僕らの部屋って……じいちゃんの家?」父が黙って頷く。僕は祖父の屋敷の一室を思い出していた。古びた家の、玄関脇の四畳半。孫達はそこで客用の布団に寝かされていたのだ。長いこと眠っていた記憶が、だんだんと蘇ってきた。

「大人になったら、カレー屋やろう」言い出したのはサトルだった。通夜の晩から一言も口をきいてなかったのに、すべてが終わった夜になって突然宣言したのだ。最初は冗談か何かかと思った。あまりに唐突すぎて本気とは思えなかったのだ。「I」。常夜灯のぼんやりした明かりの中、僕はサトルに尋ね返した。「……どうしてカレ

「屋なわけ？」「Ⅱ」

しかしサトルにはその質問自体が心外だったらしい。すぐにむつとした声が返ってきた。「だって、じいちゃんは僕らがカレーを食べる時に死んじゃったんだよ」言い返すことはできなかった。「Ⅲ」そんな理屈で納得したわけでもないのだけれど、サトルの声の迫力に圧倒されてしまったのだ。まだ小学生の頃だったが、サトルはやけに大人びた喋り方をする少年だった。サトルとワタルの兄弟は僕と同じ年なのに、いつだって僕の方が幼いような気がしていたのである。奥の座敷の方からは酒を飲んでいる大人達の喋り声が聞こえてくる。時折笑い声が混ざるのが、^④なんだか理不尽でいたたまれないように思えた。

ちよつとした間があった。沈黙の後、サトルに声をかけたのはヒカリである。「——カレー屋さんかあ」サトルの言葉を優しく受け入れる声だった。僕ですら感じたのだから、ヒカリも当然サトルの様子には気づいていたのだろう。いとこの中で一番年長のヒカリは、普段からお姉さん口調でみんなの面倒をみるようなところがあった。今にも泣きだしそうなサトルに向かって、ヒカリは穏やかな声で尋ねた。「ここやるの？」「もちろんここです。ここでなくっちゃ駄目だ」大人達の声の響きをかき消すように、サトルはきつぱりと告げた。「あたし達で？」「そりゃ、五人でなくっちゃあ」サトルの代わりにワタルが答えた。きつと僕らの間の雰囲気を読み取って調子を合わせたのだ。深い考えがあるわけじゃないの^⑤だろうが、^⑥屈託のない言い方に部屋の空気が和らいだようだった。

「いいかもね」僕も頷いた。僕ら五人でじいちゃんの店を継ぐというのは、とても自然で正しいことに思えていた。「コウジロウ君は？」ヒカリが尋ねた。ということは、ヒカリも異存はないのだ。サトルとワタルが賛成で僕も賛成、ヒカリも賛成となれば、残るはコウジロウだけである。コウジロウはしばらく黙っていたが、やがてぼそりと答えた。「……別に、いいけど」「それじゃ決まりだ」サトルが言った。無口なコウジロウの短い言葉を逃さず、すかさず約束に持つていったようなものだった。「Ⅳ」

つまり父は、その時の約束を耳にしていたというのである。

(竹内真「カレーライフ」から)

問一 ^① こっちの方が照れくさくなるとあるが、その理由として最も適当なものはどれか。

ア 調理師免許を取得したわけではないのに、「僕」がこれから調理師として絶対に成功することを、「父」が信じて疑われないような様子だから

イ 「父」のあまりにも喜んでいる姿を見て、調理師免許を取得したことはたいしたことではないと思っていた「僕」もうれしくなってきたから

ウ 料理ができないことを恥ずかしがっている「父」の様子を見て、調理師免許を取得しただけでまだ料理を作ることができない「僕」も恥ずかしくなったから

工 調理師免許を取得しただけでまだ何の実績もないのに、「父」が「僕」を一人前の調理師になったかのように受け止めているから

問二 (a) から (d) に入る語の組み合わせとして適当なものはどれか。

- ア 「a」 どうにか b まるで c なにしろ d けっこう
- イ 「a」 なにしろ b どうにか c まるで d けっこう
- ウ 「a」 どうにか b なにしろ c けっこう d まるで
- エ 「a」 なにしろ b けっこう c まるで d どうにか

問三 ^② それしか言えなかった。とあるが、その理由として適当なものとはどれか。

- ア 不動産しか「僕」に譲らないという「父」のやり方に不満を覚えたから
- イ 遺産をこの場ですべて受け渡そうとする「父」の思いがけない行動に驚いたから
- ウ 不動産を「僕」に与えようとする「父」の唐突な言葉に困惑したから
- エ 遺産を「僕」に相続させようとする「父」の計画を重荷に感じたから

問四 ^③ 僕を……浮かんだ。とあるが、その時の「父」の気持ちの説明として最も適当なものはどれか。

- ア 土地の権利書を得たことに誇りを持って、厳しい世の中を力強く生き抜いて欲しいと励ましている。
- イ 祖父の葬儀の夜に子供たちの純粋な気持ちに心を動かされて以来できる限りの準備をしてきたことを話せる時が来た、うれしく思っている。
- ウ 立派に成長した息子に、父親として精いっぱいのことをしてあげたいと思うとともに、これからの人生を自分のように豊かに生きてほしいと願っている。
- エ 遺産を相続するという突然の事態に驚きを隠せない息子の気持ちをもてあそび、これからその理由を話して息子をさらに驚かせようとしている。

問五 次の文章が入るところは、本文中の「Ⅰ」から「Ⅳ」のどこか。適当なものを後から選べ。

だけど誰も笑わなかった。なにしろ葬儀の夜なのである。迂闊(うかつ)に笑っちゃいけない気がしたし、特に面白いセリフだったわけでもない。

- ア 「Ⅰ」
- イ 「Ⅱ」
- ウ 「Ⅲ」
- エ 「Ⅳ」

問六④ なんだから………思えた。とあるが、どのようなことを「理不尽」と感じたのか。次から選べ。

ア 大人達がなごやかな雰囲気できつろいでいるのに、子供達は将来のことを真剣に話し合っていること

イ 祖父の葬式という悲しいはずの場で、大人達が楽しそうに酒を飲んでいること

ウ カレー屋をやりたいという「サトル」の夢を、大人達に笑われてるように感じたこと

エ カレー屋を開くことを納得していないのに、意気地がなくて何も反論できなかったこと

問七⑤ サトルの様子とあるが、その説明として適当なものとはどれか。

ア 祖父の店でカレー屋を開くことは当然であり、何としてでも皆に自分の思いを理解してほしいと必死になっている。

イ 祖父が亡くなった悲しみで動揺し、わけの分からないことを口に出すほど自分を見失っている。

ウ カレー屋を営業するというアイデアを皆に反対され、悔しさでいっぱいになっている。

エ 思いつきだけでカレー屋を始めるとするのは無理であると気が付いたが、意地を張っている。

問八⑥ 屈託のない言い方とあるが、その時の「ワタル」の気持ちとして適当なものとはどれか。

ア 皆に調子を合わせて、仲間外れにされないようにしよう。

イ 話題と関係ないことを話して、周囲の笑いを誘おう。

ウ 明るい調子で話して、周囲の緊張を解こう。

エ もっともらしく話して、自分の意見に同意してもらおう。

問九 本文の内容として適当なものとはどれか。

ア 自分では店を継ぐことができなかった父親の無力さと、想像以上に物事を真剣に考えて生きていこうとする子供たちのたくましさが対比的に描かれている。

イ 病気のために長くは生きられない父親が、祖父の店を受け継ぐために調理師の免許を取った息子に、自分の夢を託そうとする姿が描かれている。

ウ 専門学校で調理師免許を取っただけで無気力な生活を送っている「僕」が、何事にも真剣だった子供時代を振り返って希望を見出すまでが描かれている。

エ 祖父の店を引き継ぐという結論に至るまでの子供たちの純粋な気持ちと、彼らの希望をかなえてあげたいと思いつづけていた父親の深い愛情が描かれている。